

基礎看護学

目標Ⅰ．看護の概念及び展開について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
1 看護の 基本となる 概念	A 看護の本質	看護の定義	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2 「看護の定義」 (p.20~38) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 序章 A 「技術とはなにか」 (p.2~3)
		役割と機能	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B 「看護の役割と機能」 (p.39~61)
		看護の変遷	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-1 「看護の変遷」 (p.10~20)、第4章 A 「職業としての看護」 (p.138~150) 看護史 : 第1章 「原始看護と古代看護」 (p.6~25)、第2章 「宗教下における中世の看護」 (p.28~42)、第3章 「わが国における仏教看護」 (p.44~68)、第4章 「近世における看護」 (p.70~97)、第5章 「近代看護の確立と展開」 (p.100~152)、第6章 「第二次世界大戦までの看護」 (p.154~172)、第7章 「今日の看護」 (p.174~216)
	B 看護の対象	全体〈whole〉としての人間	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 「看護の対象の理解」 (p.78~106)
		成長・発達する存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B 「生涯発達しつづける存在としての人間の理解」 (p.94~100) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~30) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A 「対象の理解——大人になること、大人であること」 (p.4~26)
		ニーズをもつ存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2-3 「●ヴァージニア=ヘンダーソン」 (p.27~31)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論——マズローの欲求段階説」 (p.91~92) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~30)
		生活を営む存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-1 「生活者としての人間」 (p.100~103) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B 「対象の生活——働いて生活を営むこと」 (p.26~41) 社会学 : 第7章 「『働き方』『働かせ方』と健康・病気」 (p.106~120)
		適応する存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2-3 「●シスター=カリスタ=ロイ」 (p.34~36)、第2章 A-2 「看護の使命と結びつくホメオスタシス」 (p.81~83)、A-3 「『こころ』と『からだ』にかかるストレスの影響」 (p.83~88)
		社会・文化的存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-1-2 「●文化的ケア：多様性と普遍性理論」 (p.44)、第2章 C-1 「生活者としての人間」 (p.100~103)、第7章 A-6-2 「文化(異文化)看護理論」 (p.331~332) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A 「対象の理解——大人になること、大人であること」 (p.4~26)
		ライフサイクルと発達課題	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2 「心理・社会的側面における発達」 (p.96~100) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-1-1 「ライフサイクルと発達課題」 (p.5~7) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-1-2 「発達段階・発達課題」 (p.6~8) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第3章 B-4 「ライフサイクルとアイデンティティ——エリクソンの漸成的発達理論」 (p.97~102) 人間関係論 : 第1章 A-3 「人間関係の発達」 (p.7~11)
	C 健康と生活	健康のとらえ方	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 A 「健康のとらえ方」 (p.108~115) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-a 「健康について」 (p.2~3)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤)：第1章 A-3「暮らしのなかで健康をとらえる」(p.16～18) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A「成人を取り巻く環境と生活からみた健康」(p.44～65) 公衆衛生：第1章 A-2「ヘルス(衛生・健康)とはなにか」(p.17～18) 社会学：第5章 A「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」(p.74～76)、B「健康・病気の新しい見方ととらえ方」(p.76～84)
		健康のレベル	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 A「健康のとらえ方」(p.108～115) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3部「成人の健康レベルや状態に対応した看護」(p.164～333)
		健康への影響要因	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 A「健康のとらえ方」(p.108～115) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第4章 A-1「ヘルスプロモーション」(p.164～168)、第5章「健康をおびやかす要因と看護」(p.180～197)
		生活習慣とセルフケア	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-3-4「生活習慣病対策・健康増進運動における看護への期待」(p.60～61)、第2章 C-1「生活者としての人間」(p.100～103)、第3章 A-4「健康と生活」(p.112～115) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第2章 A-1-2「成人のライフスタイルの特徴」(p.49～55)、第5章 C「生活行動がもたらす健康問題とその予防」(p.187～197)、第7章 B-1「セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援」(p.249～252)
		QOL の維持と向上	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 B-4-3「健康と QOL」(p.115) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第9章 A-1-1「クオリティオブライフ(QOL)の考え方」(p.280) 公衆衛生：第1章 D-2-4「オタワ憲章——健康は手段か目的か」(p.39～42) 社会学：第5章 B-4「健康とクオリティオブライフ(QOL)」(p.79～80) 総合医療論：第1章 B-4「QOL の考え方と医療」(p.24)
		生活の場	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第2章 C-1「生活者としての人間」(p.100～103) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤)：第2章 A「暮らしと地域」(p.32～38) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第10章「さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援」(p.300～323)
	D 看護における倫理	基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第3章 A-1-2「権利としての健康」(p.109～110)、第5章 B-1-1「インフォームドコンセントの誕生」(p.190) 公衆衛生：第1章 C-3「日本国憲法のなかの公衆衛生」(p.32～33)、C-4「日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権」(p.33～34)、第2章 B-1「看護職は『みんな』の権利をまもる専門職」(p.49～50) 看護倫理：第2章 A「生命倫理とはなにか」(p.24～27)
		倫理原則、職業倫理	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-2「●倫理的配慮とプライバシー保護」(p.50)、第5章 C-2「医療をめぐる倫理原則とケアの倫理」(p.205～209) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 G「看護実践における倫理的判断」(p.139～146) 看護倫理：第2章 B「生命倫理の理論」(p.28～33)、第6章 C「看護の倫理原則」(p.103～106)
		患者の権利と擁護	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-2「●倫理的配慮とプライバシー保護」(p.50)、第5章 B-1「患者の権利とインフォームドコンセント」(p.190～191)、C-1「看護の本質としての看護倫理」(p.204～205) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤)：第6章 H-1「対象者の権利擁護」(p.208) 看護の統合と実践 [1] (看護管理)：第2章 B「患者の権利の尊重」(p.19～23) 救急看護学：第2章 D-2「倫理面への配慮」(p.45～48) 看護倫理：第2章「生命倫理」(p.24～40)、第6章「看護倫理とはなにか」(p.96～118) 看護情報学：第7章「患者の権利と情報」(p.142～158)
		倫理的葛藤と対応	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第5章 B-2「現代医療におけるさまざまな倫理的問題」(p.193～198)、C-3「看護実践場面での倫理的ジレンマ」(p.209～212) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 G「看護実践における倫理的判断」(p.139～146) 看護倫理：第6章 D「看護実践上の倫理的概念」(p.106～114)、E「看護実践と倫理」(p.114～118)、第8章「倫理的問題へのアプローチ」(p.138～162)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
2 看護の展開	A 対象との関係の形成		看護情報学：第4章 B-4「意思決定支援」(p.81～83)
		信頼関係	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第1章 D「効果的なコミュニケーションの実際」(p.44～56) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 C「健康問題をもつ大人と看護師の人間関係」(p.114～120) 精神看護学 [2] (精神看護の展開)：第8章 A「ケアの前提——感情を通して自分を知り、相手を知ること」(p.2～6)、B「ケアの原則」(p.6～13) 社会学：第9章「患者-医療者関係とコミュニケーション」(p.140～153) 人間関係論：第10章「患者を支える人間関係」(p.184～221)
		援助関係	人間関係論：第10章「患者を支える人間関係」(p.184～221)
	B 基盤となる思考過程	根拠に基づいた看護〈EBN〉	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-2「●科学的根拠を追求する態度」(p.52) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：序章 E「看護技術の発展と習得のために」(p.14～16) 看護研究：第1章 B-2「最良のケアの追求と EBP」(p.20～22) 看護情報学：第3章 B「エビデンスに基づいた保健医療」(p.50～56)
		クリティカル・シンキング	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-2「●看護過程の展開とクリティカルシンキング」(p.50～51) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第5章 B-2「クリティカルシンキング」(p.291～296)
		問題解決過程	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 B-2-2「●看護過程の展開とクリティカルシンキング」(p.50～51) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第5章 B-1「問題解決過程」(p.287～291)
	C 看護における連携と協働	看護職間の連携と協働	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 C「看護の継続性と連携」(p.61～76)、第6章 B-2-c「継続看護」(p.241～246) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤)：第5章「地域・在宅看護実践の場と連携」(p.144～162) 人間関係論：第8章 B-4「看護師どうしのコミュニケーション」(p.154～157)
		多職種間の連携と協働	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 C-2「多職種チームの連携と継続的かわり」(p.69～72)、C-3「在宅療養を支える連携と継続的なかかわり」(p.72～76)、第6章 B-1「看護サービスの担い手とチーム医療」(p.223～225) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤)：第5章「地域・在宅看護実践の場と連携」(p.144～162) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 A-2-1「チームで支えるという意識をもつ」(p.52～54)、第5章 A「地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働」(p.340～342) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 E「チームアプローチ」(p.125～129) 社会保障・社会福祉：第8章 H「連携の場面とその方法」(p.246～251) 人間関係論：第9章 A「医療におけるチームと看護師の役割」(p.162～168)、D「多職種連携に向けて」(p.179～180) リハビリテーション看護：第1章 E-2「連携職種」(p.29～32)、E-3「多職種連携のあり方」(p.32～36) 緩和ケア：第2章「緩和ケアにおけるチームアプローチ」(p.20～35) 臨床検査：第2章「臨床検査の流れと看護師の役割」(p.26～74)
		チームでの活動	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章 C「看護の継続性と連携」(p.61～76)、第6章 B-1-3「チーム医療の条件」(p.225) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤)：第5章「地域・在宅看護実践の場と連携」(p.144～162) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 A-2-1「チームで支えるという意識をもつ」(p.52～54) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章 E「チームアプローチ」(p.125～129) 栄養学：第1章 C-2「栄養サポートチーム(NST)」(p.14～15) 社会保障・社会福祉：第8章 H「連携の場面とその方法」(p.246～251) 人間関係論：第9章「保健医療チームの人間関係」(p.162～181) 緩和ケア：第2章「緩和ケアにおけるチームアプローチ」(p.20～35)

目標Ⅱ．基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
3 看護における基本技術	A コミュニケーション	コミュニケーションの目的と構成要素	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第1章 B「コミュニケーションの構成要素と成立過程」(p.23~29) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 B「セルフケアを支える対話・コミュニケーション」(p.57~62) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 C-1「医療における人間関係」(p.114~115) 人間関係論 : 第5章 A「コミュニケーションとは」(p.82~84) 緩和ケア : 第3章「緩和ケアにおけるコミュニケーション」(p.39~56) 看護情報学 : 第1章 D「情報の伝達とコミュニケーション」(p.18~21)
		コミュニケーションの基本的な技法	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第1章 D「効果的なコミュニケーションの実際」(p.44~56) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 B「セルフケアを支える対話・コミュニケーション」(p.57~62) 人間関係論 : 第5章「コミュニケーション」(p.82~101) 緩和ケア : 第3章「緩和ケアにおけるコミュニケーション」(p.39~56)
		コミュニケーションに障害のある人々への対応	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第1章 E「コミュニケーション障害への対応」(p.57~62) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 B-2「言語障害のある患者の看護」(p.251~256)
	B 学習支援	学習に関わる諸理論	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第6章 A「看護における学習支援」(p.360~365) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 A-1「大人の健康行動のとらえ方」(p.93~97)、第7章 B-2-3「教育的アプローチ」(p.257~259) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第3章 A-3「学習と行動」(p.64~67)
		学習支援の方法と媒体	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第6章 D「学習支援の実際」(p.375~402) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 A-1「大人の健康行動のとらえ方」(p.93~97)、第7章 B-2-3「教育的アプローチ」(p.257~259)
		学習支援プロセス	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第6章 C「健康状態の変化に伴う学習支援」(p.371~375) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 A-1-2「学習に基づく行動形成」(p.94~97)
	C 看護過程	情報収集	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 C-1「アセスメント(情報の収集と分析)」(p.303~316) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第5章 A-2「看護過程の展開」(p.288~292) 看護情報学 : 第5章 A-2「看護過程による情報処理」(p.90~91)
		アセスメント	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 C-1「アセスメント(情報の収集と分析)」(p.303~316) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第5章 A-2「看護過程の展開」(p.288~292)
		計画	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 C-3「看護計画」(p.326~330) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第5章 A-2「看護過程の展開」(p.288~292)
		実施	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 C-4「実施」(p.331~332) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第5章 A-2「看護過程の展開」(p.288~292)
		評価	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 C-5「評価」(p.332~334) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第5章 A-2「看護過程の展開」(p.288~292)
	D 看護業務に関する情報	看護業務に関する情報の種類	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 D「看護記録」(p.335~341) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 E-4「情報の活用」(p.53~58)
		看護業務に関する情報の記録・報告・共有	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第5章 D「看護記録」(p.335~341) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 E-4「情報の活用」(p.53~58) 看護情報学 : 第5章「医療における情報システム」(p.90~128)
	E フィジカルアセスメント	看護におけるフィジカルアセスメントの意義	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第4章 A「ヘルスアセスメントとは」(p.128~132)
		問診の基本	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第4章 B「健康歴とセルフケア能力のアセスメント」(p.132~142)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		身体診察(視診、触診、聴診、打診)の基本	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第4章 C-1「フィジカルアセスメントに必要な技術」(p.142~149)
		全身の診察(全身の観察、バイタルサイン)	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第4章 C「全体の概観」(p.142~191) 救急看護学 : 第4章 B「全身と外観の観察とアセスメント」(p.103~109)
		系統別のフィジカルアセスメント	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第4章 D「系統別フィジカルアセスメント」(p.191~267) 救急看護学 : 第4章「救急患者の観察とアセスメント」(p.100~160)
	F 感染防止対策	感染の成立と予防	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第2章 A「感染とその予防の基礎知識」(p.64~68) 微生物学 : 第5章「感染と感染症」(p.61~89) 公衆衛生 : 第6章 A「感染症とその予防の基礎知識」(p.156~158)
		標準予防策〈スタンダードプリコーション〉と感染経路別予防策	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第2章 B「標準予防策(スタンダードプリコーション)」(p.69~78)、C「感染経路別予防策」(p.78~82) 微生物学 : 第10章 C-3-2「標準予防策」(p.185~186)、C-3-3「感染経路別予防策」(p.187) 公衆衛生 : 第6章 C-3「院内感染対策」(p.167) 救急看護学 : 第4章 A「周囲の状況確認と感染予防対策」(p.100~103)
		手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第2章 B-2-1「手指衛生」(p.70~73)、D「洗浄・消毒・滅菌」(p.82~87)、E「無菌操作」(p.87~93) 微生物学 : 第7章「滅菌と消毒」(p.125~136)
		感染性廃棄物の取り扱い	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第2章 F「感染性廃棄物の取り扱い」(p.93~96) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第4章 F-5「廃棄物の取り扱いと管理」(p.120~121) 微生物学 : 第12章 C-3-2-9「感染性廃棄物の処理」(p.209) 公衆衛生 : 第5章 C-4「ごみ・廃棄物問題」(p.144~147)
		感染拡大の防止の対応	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第2章 A「感染とその予防の基礎知識」(p.64~68) 公衆衛生 : 第6章 A「感染症とその予防の基礎知識」(p.156~158)、C「院内感染とその予防」(p.164~167)
	G 安全管理〈セーフティマネジメント〉	医療安全の概念	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第6章 E「医療安全と医療の質保証」(p.292~303) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章「安全確保の技術」(p.105~125) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 F-2「リスクマネジメント」(p.136~137) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C「安全管理」(p.23~41) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第1章「事故防止の考え方を学ぶ」(p.8~37)、第8章「組織的な医療安全管理体制への取り組み」(p.236~259)
		誤薬の予防と対策	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 B「誤薬防止」(p.108~113) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-9-2「アセスメントのポイント」(p.219~222) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C-2-5「対象者の安全確保」(p.32~34) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 B「注射業務と事故防止」(p.44~68)、E「内服と薬業務と事故防止」(p.96~114) 臨床薬理学 : 第1章 B-3「安全管理」(p.30~35)
		転倒・転落の予防と対策	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 E「転倒・転落防止」(p.117~120) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤) : 第4章 B「暮らしの環境を整える看護」(p.106~110)、第4章 F-2-1「●転倒」(p.133~134) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 D-1-2「●転倒の予防と対策」(p.73)、「●転落の予防と対策」(p.73~74) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C-2-5「対象者の安全確保」(p.32~34) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第4章 B「転倒・転落事故防止」(p.144~170)
		チューブ・ライントラブルの予防と対策	基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I) : 第3章 C「チューブ類の事故防止」(p.113~116) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第3章 A「チューブ管理と事故防止」(p.122~135)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
	H 安楽の確保	針刺しの予防と対策	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第2章 H「針刺し防止策」(p.96~100) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-1-5「注射の準備」(p.331~335) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C-3「院内感染対策」(p.35~39) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第7章 A「職業感染」(p.218~220)、第8章 B-3-3「注射・点滴実施時の間違い」(p.253~254) 臨床検査 : 第2章 E-4-1「針刺しなどによる血液曝露」(p.54~55)
		安楽の概念	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-2-2「●安全性と安楽性」(p.49~50) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 C「身体ケアを通じてもたらされる安楽」(p.160~167)
		ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A「基本的活動の援助」(p.104~140)
		安楽な姿勢・体位の保持	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.104~110)、A-2「体位」(p.110~113)、第5章 A「体位保持」(p.152~156) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-2-b-2「身体活動の支援のポイント」(p.94~99)
		安楽を提供するためのケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章「苦痛の緩和・安楽確保の技術」(p.151~168) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 3章 I-3「安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助」(p.212~217) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-6「苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術」(p.171~174)
		安楽を保つための療養環境の調整	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章「環境調整技術」(p.9~26) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-2-b-2「身体活動の支援のポイント」(p.94~99)
	I 終末期のケア	終末期の患者のケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 A「死にゆく人と周囲の人々へのケア」(p.458~464) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 2章 F-3「終末期にある患者への看護援助」(p.109~115) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第3章 H「終末期の看護(グリーフケアを含む)」(p.245~248)、第4章 I「がん終末期の療養者の事例展開」(p.330~337) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第8章「人生の最期のときを支える看護」(p.280~298) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第5章 D-9「治癒が期待できなくなったとき」(p.216~219)
		終末期の家族のケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 A「死にゆく人と周囲の人々へのケア」(p.458~464) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 2章 F-3「終末期にある患者への看護援助」(p.109~115) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第3章 H「終末期の看護(グリーフケアを含む)」(p.245~248)、第4章 I「がん終末期の療養者の事例展開」(p.330~337) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第5章 D-9「治癒が期待できなくなったとき」(p.216~219)
		死亡後のケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章「死の看取りの援助」(p.457~475) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第4章 I-6「死亡直後の看護」(p.335~336) 公衆衛生 : 第8章 D-6-公衆衛生ナビ「グリーフケア」(p.266)
4 日常生活援助技術	A 環境	療養環境のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章 A-2「病室の環境のアセスメントと調整」(p.11~18)、B-1「ベッド周囲の環境整備」(p.19~21)
		療養環境の調整と整備	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章 A-2「病室の環境のアセスメントと調整」(p.11~18)、B「援助の実践」(p.18~26) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤) : 第4章 B「暮らしの環境を整える看護」(p.106~110) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-1「療養環境調整に関する地域・在宅看護技術」(p.86~93)
	B 食事と栄養	健康な食生活と食事摂取基準	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.29~38) 栄養学 : 第5章 B「日本人の食事摂取基準」(p.93~98)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			臨床外科看護総論：第3章 D-2「栄養状態の評価と栄養療法の選択」(p.116～119) 栄養食事療法：第1章 A-1「食生活と栄養食事療法」(p.2～3)
		治療食、療養食	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 A-2「医療施設で提供される食事の種類と形態」(p.37～38) 栄養学：第9章 B「病院食」(p.188～197)
		食事と栄養に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.29～38) 栄養学：第1章 B「保健・医療における栄養学」(p.9～12)、C「看護と栄養」(p.12～16)
		食事と栄養のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.29～38) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-3-b「食生活・嚥下に関するアセスメント」(p.107～112) 栄養学：第7章「栄養状態の評価・判定」(p.132～149) 栄養食事療法：第2章 C「栄養アセスメントの基本」(p.26～31)
		食事摂取の自立困難な人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 B「食事摂取の介助」(p.39～43) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-3-c「経口摂取の援助」(p.112～119) 栄養学：第8章 I「高齢期における栄養」(p.179～186) 栄養食事療法：第2章 B「栄養補給法」(p.23～26)
		嚥下障害のある人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 C「摂食・嚥下訓練」(p.44～51) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-3-c「経口摂取の援助」(p.112～119) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 B-9「嚥下障害のある患者の看護」(p.283～288) 成人看護学 [14] (耳鼻咽喉)：特論「摂食・嚥下障害患者の看護」(p.241～270) 栄養学：第9章 F-10「咀嚼・嚥下障害患者の食事療法」(p.225～226) リハビリテーション看護：第4章 A-5-4「摂食・嚥下障害」(p.168～175)、B-5-3「摂食・嚥下障害」(p.222～224) 栄養食事療法：第3章 D「摂食・嚥下障害」(p.39～42)
		経管・経腸栄養法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 D-1「経管栄養法」(p.51～60) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-3-e「経管栄養法を受ける療養者の援助」(p.120～131) 成人看護学 [5] (消化器)：第4章 C-2-2「栄養療法・食事療法と栄養食指導の概要」(p.123～126) 栄養学：第9章 C-1「経腸栄養法」(p.197～199) 臨床外科看護総論：第3章 D-3-3「経腸栄養法」(p.120) 栄養食事療法：第2章 B-2「経管・経腸栄養法」(p.24～26)
		経静脈栄養法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第2章 D-2「中心静脈栄養法」(p.60～61) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-3-f「在宅中心静脈栄養法(HPN)を受ける療養者の援助」(p.131～136) 栄養学：第9章 C-2「経静脈栄養法」(p.199) 臨床外科看護総論：第3章 D-3-2「静脈栄養法」(p.119) 栄養食事療法：第2章 B-3「経静脈栄養法」(p.26) 臨床薬理学：第4章 B-2「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」(p.243～251)
	C 排泄	排泄に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-1「自然排尿および自然排便の基礎知識」(p.65～71)
		排泄のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-1-3「アセスメント——患者の状態に応じた援助を決定するために」(p.68～71) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：第3章 D-2「排泄機能障害に関連するニーズ判別のためのアセスメント」(p.157～159) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-4-b「排泄のアセスメント」(p.136～144)
		自然な排泄を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A「自然排尿および自然排便の介助」(p.65～79) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-4-c「援助の実際」(p.144～157) 成人看護学 [7] (脳・神経)：第6章 B-10「排尿障害のある患者の看護」(p.288～292)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			リハビリテーション看護：第4章 A-5-9「排尿障害」(p.190～192)、A-5-10「排便障害」(p.192～194)、C-5-3「排尿障害」(p.245～248)、C-5-4「排便障害」(p.245～250)
		トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-2-1「トイレにおける排泄介助」(p.71～73) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-4-c-1「セルフケアのための援助」(p.144～146)
		床上での排泄の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A-2-2「床上排泄援助」(p.74～76)、A-2-3「おむつによる排泄援助」(p.77～79) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-4-c-3「●失禁の援助」(p.147～149)
		自然な排泄が困難な人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 B「導尿」(p.79～87)、C「排便を促す援助」(p.87～94)、D「ストーマケア」(p.94～102) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-4-c「援助の実際」(p.144～157)
		尿失禁・便失禁のある人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第3章 A「自然排尿および自然排便の介助」(p.65～79) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論)：3章 D-3「排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助」(p.159～163) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-4-c-3「●失禁の援助」(p.147～149) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器)：第3章 B-1-3「尿失禁」(p.47～48)、第6章Ⅱ-3-d「尿失禁のある患者の看護」(p.217～221)
	D 活動と運動	活動と運動に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.104～110) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-2-a「暮らしにおける活動・休息とその援助」(p.93～94)
		活動と運動のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A「基本的活動の援助」(p.104～140) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-2-b「活動に関する地域・在宅看護技術」(p.94～102)
		活動と運動を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 A「基本的活動の援助」(p.104～140) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-2-b「活動に関する地域・在宅看護技術」(p.94～102) リハビリテーション看護：第4章 A-5-2「運動障害」(p.148～164)、C-5-1「運動麻痺」(p.231～244)
	E 休息と睡眠	休息と睡眠に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.140～145) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-2-a「暮らしにおける活動・休息とその援助」(p.93～94)
		休息と睡眠のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.140～145) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-2-c「休息に関する地域・在宅看護援助」(p.102～105)
		休息と睡眠を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第4章 B「睡眠と休息の援助」(p.140～150) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-2-c「休息に関する地域・在宅看護援助」(p.102～105)
	F 清潔と衣生活	清潔と衣生活に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第6章 A-1「清潔の援助の基礎知識」(p.171～177)、B-1「援助の基礎知識」(p.224～225) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-5-a「暮らしにおける清潔・衣生活とその援助」(p.160～161)
		清潔と衣生活のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ)：第6章「清潔・衣生活援助技術」(p.169～232) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践)：第2章 E-5-b「清潔・衣生活に関するアセスメント」(p.162～163)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
5 診療に伴う看護技術	A 呼吸・循環・体温調整	清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章「清潔・衣生活援助技術」(p.169～232) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-5-c「在宅における清潔・衣生活の援助の実践」(p.163～171) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5「障害とリハビリテーション看護」(p.145～196)、B-5「障害とリハビリテーション看護」(p.201～226)、C-5「障害とリハビリテーション看護」(p.231～259)
		呼吸・循環・体温調整のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章「呼吸・循環を整える技術」(p.233～278) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-7-b「呼吸のアセスメント」(p.174～178)、E-7-c「循環のアセスメント」(p.178～180)
		呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 A「体位保持」(p.152～156)、第7章 B「排痰ケア」(p.240～255) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-7-d-2「●呼吸法・呼吸リハビリテーション」(p.182) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第6章 B-4「呼吸困難のある患者の看護」(p.242～246) 成人看護学 [3] (循環器) : 第6章 B-4「呼吸困難に対する看護」(p.253～256)
		血圧・血流を保持する姿勢	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.104～110)、第5章 A「体位保持」(p.152～156)、第7章 G「末梢循環促進ケア」(p.274～278)
		酸素吸入の適応と方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素療法」(p.234～240) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-7-e-1「在宅酸素療法(HOT)を受ける療養者の援助」(p.186～190)、E-7-e-2「非侵襲的陽圧換気(NPPV)を受ける療養者の援助」(p.190～197)、E-7-e-3「気管切開下陽圧換気(TPPV)を受ける療養者の援助」(p.197～199) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111～113)、第6章 D-2「酸素療法を受ける患者の看護」(p.253～256) 臨床外科看護総論 : 第3章 B-2-1「人工呼吸の目的と適応」(p.106) 救急看護学 : 第6章 C「酸素投与」(p.305～307) クリティカルケア看護学 : 第4章 C-1「酸素療法」(p.208～210)
		口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B-2-3「吸引」(p.248～255) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-7-d-2「●吸引」(p.182～183)、E-7-e-4「●排痰に関する地域・在宅看護技術」(p.204～205) 救急看護学 : 第6章 F「吸引」(p.314～319) クリティカルケア看護学 : 第5章 C-1-6「気管内吸引」(p.205～207)
		排痰法の適応と方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B「排痰ケア」(p.240～255) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-7-d-2「●排痰ケア」(p.182)、E-7-e-4「●排痰に関する地域・在宅看護技術」(p.204～205) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第6章 B-1「咳嗽・喀痰のある患者の看護」(p.235～238) リハビリテーション看護 : 第5章 A-6-5「看護」(p.272～280)
		体温調整のための方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B「電法」(p.156～160)、第7章 F「体温管理の技術」(p.271～274) クリティカルケア看護学 : 第4章 G「体温管理」(p.230～234)
	B 皮膚・創傷管理	創傷の治癒過程	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.280～284) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 4章 F-1「創傷」(p.267～269) 臨床外科看護総論 : 第1章 E「創傷治癒」(p.34～52) 救急看護学 : 第6章 O「創傷処置」(p.351～352)
		創傷のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.280～284)、B「創傷処置」(p.284～297) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-8-b-3「褥瘡発生時の対応」(p.213～216) 救急看護学 : 第5章 I-1「筋・骨格系の観察とアセスメント」(p.151～153)
		洗浄、保護、包帯法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 B「創傷処置」(p.284～297) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-8-a「テープ類による皮膚トラブルの予防とケア」(p.206～209) 救急看護学 : 第6章 O「創傷処置」(p.351～352)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
	C 与薬	褥瘡の予防と治癒の促進	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 C「褥瘡予防」(p.298～306) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 4章 F-2-3「褥瘡ケア」(p.273～277) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-8-b「褥瘡の予防とケア」(p.209～216) 成人看護学 [12] (皮膚) : 特論「褥瘡患者の看護」(p.249～272) 臨床外科看護総論 : 第1章 E-7「褥瘡の予防と処置」(p.47～52) リハビリテーション看護 : 第4章 C-6-1「褥瘡」(p.256～258)
		与薬における看護師の役割	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 A-2「看護師の役割」(p.312～314) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-9「与薬に関する地域・在宅看護技術」(p.219～226) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 E-2-2「看護業務の視点で内服と薬業務の危険とその要因を知る」(p.101～107) 薬理学 : 第1章 A-3「チームによる薬物治療と看護師の役割」(p.8～12) 臨床薬理学 : 第1章 B「患者と薬物治療」(p.23～26)
		薬剤の種類と取り扱い方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章「与薬の技術」(p.309～376) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-9「与薬に関する地域・在宅看護技術」(p.219～226) 薬理学 : 第1章 A-2「現代の薬物」(p.5～7) 臨床薬理学 : 第1章 A「医薬品の取り扱い」(p.6～23)
		与薬方法と効果の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章「与薬の技術」(p.309～376) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-9「与薬に関する地域・在宅看護技術」(p.219～226) 臨床薬理学 : 第1章 B「薬物治療の実際」(p.23～33)
		与薬の副作用(有害事象)の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 A-2-1「正しい与薬」(p.312～313) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第2章 E-9「与薬に関する地域・在宅看護技術」(p.219～226) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 E-4「内服と薬事故防止のために必要な知識・技術」(p.112～114)
	D 輸液・輸血管理	輸液・輸血の種類と取り扱い方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-2-d「静脈内注射」(p.346～369)、I「輸血管理」(p.369～375) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第4章 C-5-2「出血とその対策」(p.92～96)、第5章 D-5「輸血療法」(p.199～213) 薬理学 : 付章「輸液製剤・輸血剤」(p.314～326) 救急看護学 : 第6章 H「輸液と輸血」(p.323～326)
		輸液・輸血の管理方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-2-d「静脈内注射」(p.346～369)、I「輸血管理」(p.369～375) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第5章 D-5「輸血療法」(p.199～213) 救急看護学 : 第6章 H「輸液と輸血」(p.323～326)
		輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-2-d「静脈内注射」(p.346～369)、I「輸血管理」(p.369～375) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第4章 C-5-2「出血とその対策」(p.92～96)、第5章 D-5「輸血療法」(p.199～213) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 D-3-1「ABO血液型不適合輸血の初期症状と観察のポイント」(p.93～94) 救急看護学 : 第6章 H「輸液と輸血」(p.323～326)
	E 救命救急処置	生命の危機的状況のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 A-2「急変時における初期対応」(p.379～381) 臨床外科看護総論 : 第5章 A-2-1「救急処置法の原則」(p.185～186) 救急看護学 : 第4章「救急患者の観察とアセスメント」(p.100～160) クリティカルケア看護学 : 第4章 A-2「重症救急患者の全身状態のアセスメント」(p.187～188)
		一次救命処置 (BLS)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.384～394) 臨床外科看護総論 : 第5章 A-1「救急処置の範囲と対象」(p.184) 救急看護学 : 第5章 A-1「一次救命処置(BLS)」(p.164～174) クリティカルケア看護学 : 第4章 B-3-1「一次救命処置」(p.190～195)
		止血法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 C「止血法」(p.396～399) 臨床外科看護総論 : 第4章 A-4「止血」(p.151～153) 救急看護学 : 第6章 B「止血法」(p.299～305)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
	F 生体機能のモニタリング	診察・検査時の看護師の役割	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 A 「症状・生体機能管理技術の基礎知識」 (p.405～407)、第 12 章 「診察・検査・処置の介助」 (p.435～456) 臨床検査 : 第 2 章 A-3 「検査における看護師の役割」 (p.28～30)
		検体検査(血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、骨髓液)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 B 「検体検査」 (p.407～422)、第 12 章 B-8 「穿刺」 (p.449～456) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第 4 章 B-1 「血液検査」 (p.72～74)、B-2 「喀痰検査」 (p.74～77)、B-4 「胸水検査」 (p.77～80) 成人看護学 [5] (消化器) : 第 4 章 B-1 「糞便検査」 (p.74～77) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第 4 章 B-1 「尿の検査」 (p.70～74) 臨床検査 : 第 3 章 「一般検査」 (p.78～101)
		生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 C-1 「心電図モニター」 (p.423～425)、第 12 章 B-1 「X 線検査」 (p.437～439)、B-2 「コンピュータ断層撮影(CT)」 (p.439)、B-3 「磁気共鳴画像(MRI)」 (p.439～441)、B-4 「内視鏡検査」 (p.441～443)、B-5 「超音波検査」 (p.443～444)、B-6 「心電図検査」 (p.445～447)、B-8 「核医学検査」 (p.448～449) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第 4 章 B-5 「画像診断」 (p.80～87)、B-6 「内視鏡検査」 (p.87～92) 成人看護学 [3] (循環器) : 第 4 章 B 「検査」 (p.52～83) 臨床検査 : 第 10 章 「生体検査」 (p.288～355) 臨床放射線医学 : 第 1 部 「画像診断」 (p.17～177)
		経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) の測定、血糖測定	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 B-1 「血液検査」 (p.407～416)、C-2 「SpO ₂ モニター」 (p.425～428) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 付章 B-1 「検査のための医療機器」 (p.323～331) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第 4 章 B-8-2 「動脈血ガス分析」 (p.101～107) 成人看護学 [3] (循環器) : 第 4 章 B-6 「血行動態モニタリング」 (p.75～78) 成人看護学 [6] (内分泌・代謝) : 第 4 章 B-2-1-1 「血糖値」 (p.72)
		モニタリング機器の取り扱い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第 11 章 C 「生体情報のモニタリング」 (p.422～434) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 付章 B-1 「検査のための医療機器」 (p.323～331)

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
6 看護の役割と機能	A 看護の場に応じた活動	在宅における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-b 「地域における看護」 (p.231～241) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤) : 第 1 章 B 「地域・在宅看護の役割」 (p.18～22) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第 1 章 A 「地域・在宅看護の展開」 (p.12～48)、第 2 章 A-1 「地域・在宅看護実践とは」 (p.50～52)
		医療施設における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-a 「医療施設における看護」 (p.225～231) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第 1 章 C-5 「地域の施設に応じた看護」 (p.43～46)
		保健施設と福祉施設における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 6 章 B-2-b 「地域における看護」 (p.231～241) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第 1 章 C-5 「地域の施設に応じた看護」 (p.43～46)
	B 保健・医療・福祉の連携と継続看護	保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C-2 「多職種チームの連携と継続のかかわり」 (p.69～72)、C-3 「在宅療養を支える連携と継続のなかかわり」 (p.72～76) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤) : 第 5 章 「地域・在宅看護実践の場と連携」 (p.144～162) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第 2 章 A-2-1 「チームで支える」という意識をもつ (p.52～54)、第 5 章 A-1 「看護師が連携・協働において果たす役割」 (p.340～341) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 3 章 E 「チームアプローチ」 (p.125～129)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C-2 「多職種チームの連携と継続的かわり」 (p.69～72)、C-3 「在宅療養を支える連携と継続的なかわり」 (p.72～76) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤) : 第 5 章 「地域・在宅看護実践の場と連携」 (p.144～162) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第 5 章 B-2-3 「連携・協働のための会議」 (p.346～347) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 10 章 A 「移行支援の基礎知識」 (p.300～309) 社会保障・社会福祉 : 第 8 章 F 「連携の重要性」 (p.236～240)、G 「社会福祉実践と医療・看護との連携」 (p.240～246)、H 「連携の場面とその方法」 (p.246～251) 看護情報学 : 第 5 章 C 「地域医療福祉のネットワークと情報システム」 (p.116～128)
		施設内・施設間における継続看護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第 1 章 C 「看護の継続性と連携」 (p.61～76)、第 6 章 B-2-c 「継続看護」 (p.241～246) 地域・在宅看護論 [1] (地域・在宅看護の基盤) : 第 5 章 「地域・在宅看護実践の場と連携」 (p.144～162) 地域・在宅看護論 [2] (地域・在宅看護の実践) : 第 3 章 E 「在宅療養移行期の看護」 (p.239～241) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第 10 章 「さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援」 (p.300～323)